

平成19年度 研究のまとめ

附属中学校

藪 陽介

1 実践学年 第2学年

2 題材名 「日本美術を知る」 (鑑賞新聞づくり、水墨画、篆刻 を一体的に扱った題材)

3 題材について

本題材は鑑賞領域の中でも日本の美術について、表現領域とともに一体的に扱ったものである。新学習指導要領の方向性についても示されているように、自国の文化を見直し継承していく態度の育成が求められている。ここでは関西方面への修学旅行を動機付けとして、日本の絵画、仏像、建築、庭園などの窓口から、グループで決めた課題に従って新聞づくりを行う。課題設定から調べ活動、新聞形式へまとめる活動を通して、生徒が主体的に日本の美術に関心をもち追求することを意図したものである。

また、新聞制作途中の段階では、調べたことに関連し「挿絵」を入れるという設定として、水墨画に取り組みさせた。墨の表現も日本で独自の広がりを見せた分野の一つであり、素材も身近で扱いやすい。また比較的短時間で制作できるという利点もある。

さらにこの題材に関連をもたせるため、水墨画に押すための落款印(篆刻)を制作する。篆刻は、「方寸の宇宙」といわれるように、朱と白で表現される版表現のひとつである。印面に加え持ち手の部分(紐;ちゆう)を彫刻することにより他分野の複合的な題材であるといえる。

また、「鑑賞、水墨、篆刻」それぞれの場面で、NHKテレビ番組の録画を視聴し、興味関心を高めるとともに、より深い理解を期待して設定した。

4 題材の目標

- ・ 日本の美術に興味をもつとともに、そのすばらしさに対して知識や理解を深める。

5 材料及び準備物

<新聞づくり> 模造紙、カラーペンなど

<水墨画> 墨、筆、和紙

<篆刻> 高蠟石(3*3*8センチ)、印刀

6 指導計画 (全24時間)

次	学習活動	評価規準	配時
1 新聞づくり	導入 ・ 日本美術に関するスライドをみて、課題を探る。 (個人活動)	・ 課題の候補をスケッチブックに複数書き出すことができる。(関心・意欲・態度)	1
	課題設定 ・ 4人グループで話し合いをして新聞の課題を設定する。 ・ 調べる部分の分担を決める。	・ 調べる内容の、広がりや深さを意識して課題を設定することができる。(発想・構想)	1

	調べ活動 ・ 図書室の本などで自分の担当分野を調べる。	・ 積極的に文献やインターネットから情報を得て、意欲的に活動を行うことができる。 (関心・意欲・態度)	3
	まとめ活動 ・ レイアウト、配色などを考えて1枚の新聞(模造紙)にまとめる。	・ 複数の情報を整理しながら、自分の考えも加えて活動を行うことができる。(鑑賞)	3
	ビデオ視聴 ・ NHK「美の壺」(京都)を見る。	・ 改めて興味を深め、自分なりの感想をもつことができる。(鑑賞)	1
2 水墨画を描く	技法体験 ・ 基本の筆づくりを理解して、「にじみ」「渴筆」「散筆」「たらし込み」などが用いられている絵の模写をして技法を体験する。	・ 技法の特徴が表れるよう模写をすることができる。(技能)	2
	挿絵制作 ・ 新聞の記事に関連のある挿絵を、写真や絵を見て水墨で描く。	・ 既習体験を生かし、生き生きと墨の表現ができる。(技能)	2
	ビデオ視聴 ・ NHK「美の壺」(奈良墨)を見る。	・ 改めて興味を深め、自分なりの感想をもつことができる。(鑑賞)	1
	相互鑑賞 ・ 全作品(40点)の新聞を鑑賞して日本美術に対する知識理解を深める。(学習発表会)	・ 他のグループのよさを見つけ、具体的に感想を書くことができる。	
3 篆刻をつくる	ビデオ視聴 ・ NHK「美の壺」(印章)を見る。	・ 改めて興味を深め、自分なりの感想をもつことができる。(鑑賞)	1
	印面の制作(デザイン、彫り) ・ 様々な印面のパリエーションを見て、<朱文・白文>の選択や文字のバランスに気を配りながらデザインして彫る。	・ 文字の形、大きさ、位置などを検討しながら、多くのパリエーションの下絵を描き検討することができる。(発想・構想)	4
	持ち手(紐 ちゆう)の制作(デザイン、彫り) ・ 具象、抽象を問わずデザインを決め彫刻を施す。	・ つくりたい形をイメージしながら石彫表現ができる(技能)	5

7 実践を通しての考察

長期間、一つの流れの中で題材を継続するという試みであったが、生徒にとっては「日本美術」についての意識を高めることにつながったのではないと思われる。また、一つ一つの小題材の適所においてビデオの視聴を挿入した。映像情報は印象が強く興味を高めるために有効であったと思われる。また、いま取り組んでいることが、日常生活とどのようにつながっているのかと、いう理解を深めるのにも役立ったのではないと思う。

